

# 感 染 症

科目責任者 小 飼 貴 彦

学年・学期 3 学年・3 学期

## I. 前 文

第二次世界大戦後、感染症はペニシリンを始めとする抗菌薬の開発・進歩により、制圧が可能と思われた時代もありました。しかし、皮肉にも抗菌薬治療の発達が多剤耐性菌のアウトブレイクを誘発させています。それゆえ、抗菌薬の選択と適切な使用法が重要となってきました。また、BSE、新型インフルエンザ、エボラ出血熱、新型コロナウイルス等の新興感染症や結核、劇症型A群溶連菌感染症等の再興感染症が最近問題になっています。さらに、国際化の発展により人の出入国や海外との物流が盛んになることでデング熱、ジカ熱等の輸入感染症も問題化してきています。

本講義では各種感染症の疫学・発症機序・診断・治療・予防などについて総合的に学修します。併せて感染に対する生体防御反応の機構・免疫、日和見感染症や院内感染対策などについても理解を深めます。

本科目を通して、患者やその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師として活躍できる知識を習得することが期待されます。

## II. 担当教員

教授	小 飼 貴 彦	(ゲノム診断・臨床検査医学)
教授	春 木 宏 介	(埼玉医療センター 臨床検査部)
特任教授	杉 山 公美弥	(国立病院機構宇都宮病院 呼吸器・アレルギー内科)
臨床教授	室 久 俊 光	(足利赤十字病院 内科)
講 師	福 島 篤 仁	(ゲノム診断・臨床検査医学)
講 師	水 野 智 弥	(泌尿器科学)
講 師	新 井 良	(内科学(呼吸器・アレルギー))
非常勤講師	館 田 一 博	(東邦大学 微生物・感染症学)
非常勤講師	吉 田 敦	(東京女子医科大学 総合感染症・感染制御部 感染症科)

## III. 一般学習目標

病原体(ウイルス・細菌・真菌・寄生虫など)の基本的特性を理解し、感染経路、感染様式、発症機序、検査法、治療法を学修します。そして耐性菌の薬剤耐性機構、医療関連感染症の基本的知識を習得し、その対策について学びます。また、敗血症と全身性炎症反応症候群(SIRS)を理解するようにします。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 種々の病原体(ウイルス・細菌・真菌・寄生虫他)による疾患を説明できる。
- 2) 種々の病原体に対する検査法、治療法を説明できる。
- 3) 抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬の特徴、適応を説明できる。
- 4) 薬剤耐性菌を説明できる。
- 5) 敗血症と全身性炎症反応症候群(SIRS)を説明できる。
- 6) 日和見感染症を説明できる。
- 7) 院内感染対策を説明できる。

## V. 授業計画及び方法 \* ( )内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業(知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

やむを得ず予定や講義形態が変更される場合がある。

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	1	6	水	1	感染症診療総論	福 島 篤 仁	1
2		6	水	2	抗菌薬について	福 島 篤 仁	1
3		6	水	3	消化器系感染症 (消化管系, 肝胆道系, HBV再活性化)	室 久 俊 光	1
4		6	水	4	中枢神経感染症/頭頸部感染症/皮膚軟部組織感染症・骨・関節感染症	福 島 篤 仁	1
5		7	木	1	抗酸菌感染症 (結核, 非結核性抗酸菌症)	杉 山 公美弥	1
6		7	木	2	感染症検査	小 飼 貴 彦	1
7		7	木	3	尿路・泌尿器系感染症/性感染症	水 野 智 弥	1
8		7	木	4	真菌感染症 (深在性真菌感染症/抗真菌薬について)	吉 田 敦	1
9		7	木	5	薬剤耐性	舘 田 一 博	1
10		7	木	6	輸入感染症/ One health	春 木 宏 介	1
11		8	金	1	呼吸器疾患	新 井 良	1
12		8	金	2	ワクチンについて	福 島 篤 仁	1
13		8	金	3	HIV感染症	福 島 篤 仁	1
14		8	金	4	感染制御・院内感染対策について	福 島 篤 仁	1

#### VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

試験, 出席状況等を総合的に判断して評価します。

定期試験 (85%), 授業時のミニテストおよび出席状況等 (15%)

※定期試験問題内の英語問題は「医学英語Ⅲ」の評価として集計

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書は指定しません。

#### VIII. 質問への対応方法

科目責任者(小飼 貴彦:tkogai@dokkyomed.ac.jp)または各担当教員にメールでアポイントをとる事をお勧めします。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	◎
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	◎
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事後学習で提出されたレポートは添削のうえ、返却します。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊参照。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊参照。